

各地よりのたより

群馬縣より

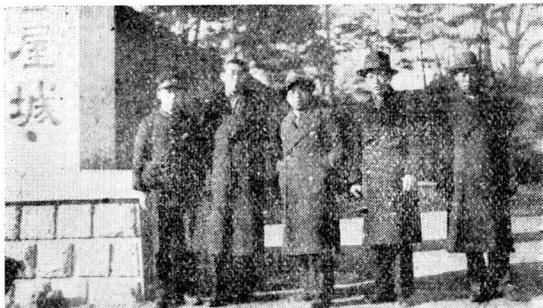
(前略) 先月關西出張の際倉敷の岡林氏、名古屋では小澤、寺町、山田達雄の諸氏にお目に掛り、短時間ながら歓談する機会を得た事は大變嬉しう御座いました。お目に掛つた諸氏の勉強振りを目のあたりに見て、日頃不勉強の小生大いに教へられる所が御座いました。

先日“計算圖表に依る光度計算”と云ふ拙稿事務局宛御送り致しました。内容は變星の觀測を整理する際に、計算圖表に依つて行ひ以て計算の簡便化を計つたものですが、多忙の間にまとめたもので、加へて行文稚拙、甚だ不出來ては御座いますが、御叱正を得れば幸に存じます。

天界誌上では觀測部月報も毎月待たれるものゝ一つです。昔から相變らず御盛な流星課に、近日堅實な觀測者の増した太陽課と、黃道光課、觀測部の爲嬉しい事です。唯、變星課が近時稍不振の状態に居る様な氣がして残念でなりません。先日岡林氏、小澤氏にお會ひした折も、此の話が出て、何とかして新觀測者を増さなくてはとの事でした。小生も全く同感で御座います。それに就て全々新しく觀測を始める方達の爲に、2年か3年に1度位づつ變星觀測手引と云つた様な記事を天界に出すのも一策かと愚考致します。237號の本田實氏の黃道光の觀測手引の如き。

話は變りますが、O. A. A. の會員分布が關西方面に厚く、他の地方、殊に關東から東北以北に掛け、目立つて少くなつて居るのが残念です。關東方面も東京は別として東京以北の縣では誠に暁天の星の如くです。小生も及ばずながら會勢の發展にも努力致し度いと存じて居りますが、仲々星に興味を持つと云ふ様な人は少いので思ふに委せません。

關東地方に於ては、東京を除く各縣に於ては、縣單位の活動は現況に於ては不可能に近く、どうしても數縣のブロックを單位として活動せねばならぬと存じます。小生の考へとしては、千葉、茨



山田達雄 小澤喜一 寺町忠行 (友人) 内藤一男

城、栃木、群馬、埼玉の5縣のプロックはどうかと思ひます。何れにしても縣内に少數の會員しか居らぬ所では隣接縣の會員同志の連絡と云ふ事が重大な問題と思ひます。(後略)

3月7日夜 内藤 一 男

(編者註) 前頁の寫眞は内藤氏より送られたもの。向つて右より内藤一男、松岡正次、寺町忠行、小澤喜一、山田達雄の諸氏(昭和16年二月15日、名古屋城にて)。なほ内藤氏の“計算圖表に依る光度計算”は八月號又は九月號に掲載の豫定。

ブラジル支部より

山本一清先生

佐藤 收

渡伯致しましてより長い間御無沙汰のみ致しましたが、天界で毎月先生の御活動を拜讀しまして、蔭ながら御喜び申して居ります。私も、再渡伯致しましてより早や滿五年ですが、其の間アリアンサ1にのみ居り、神屋氏の殘した氣象觀測を續けて居ります。長い間天然の觀測をして居りますと、人智の弱いのが良く見せつけられる事が度々ですと共に、天然の神祕力に引入られます。此頃、21時の觀測に、空を見ますと、それはアリアンサ1の天空はすてきです。學者なら本當に喜ぶだらうと思ひます。アリアンサ1の1年の雲量平均が3.3で、氣温が24.06度ですから、年中としても好條件です。それで、私の様な氣象學計りして居る者も、自然アマチュア天文學者の様になつて参ります。

只今望遠鏡は有りませんが、星の運動を見て居りますと仲間面白い者です。アリアンサ1の青年にも此の位の研究をして居る者が4、5名居りますが、良い指導者が無いのと、参考書が無い爲、又はげしい労働や、金錢の貧しい爲に十二分に研究の出來ないのが氣の毒です。只、毎月の天界を讀む位です、しかしこれでは何にも知らぬ者には順序がなくて困ります。けれど、今の所、それだけで満足しなければなりません。それで濟みませんが良い本を私の所宛に送て下さい。送金は目下日本政府の許可を得なければ出來ませんので、サンパウロの栗原研究所へ届きましたら送つて置きます。(下略) 三月24日

編輯室より

いよいよ火星が来る。其の對策第一聲を此の號に伊達課長の筆によつて放つ。今までの經驗を有つ會員たちは七月1日から此の星の觀測を始めて貰ひたい。急報も亦ウンと此の方面に奮發するつもり。火星については一昨1939年の觀測報告書が南洋のゲデス氏からも來てゐるから、次號あたりに之れを譯して出すつもり▲渡邊講師は久しぶりの寄稿で、日本天文史の研究家には大に參考となるものである。天經或間は、從來古本店によく見かけたが近來少々見當り難くなつた。だんだん珍書となるのかも知れない。